

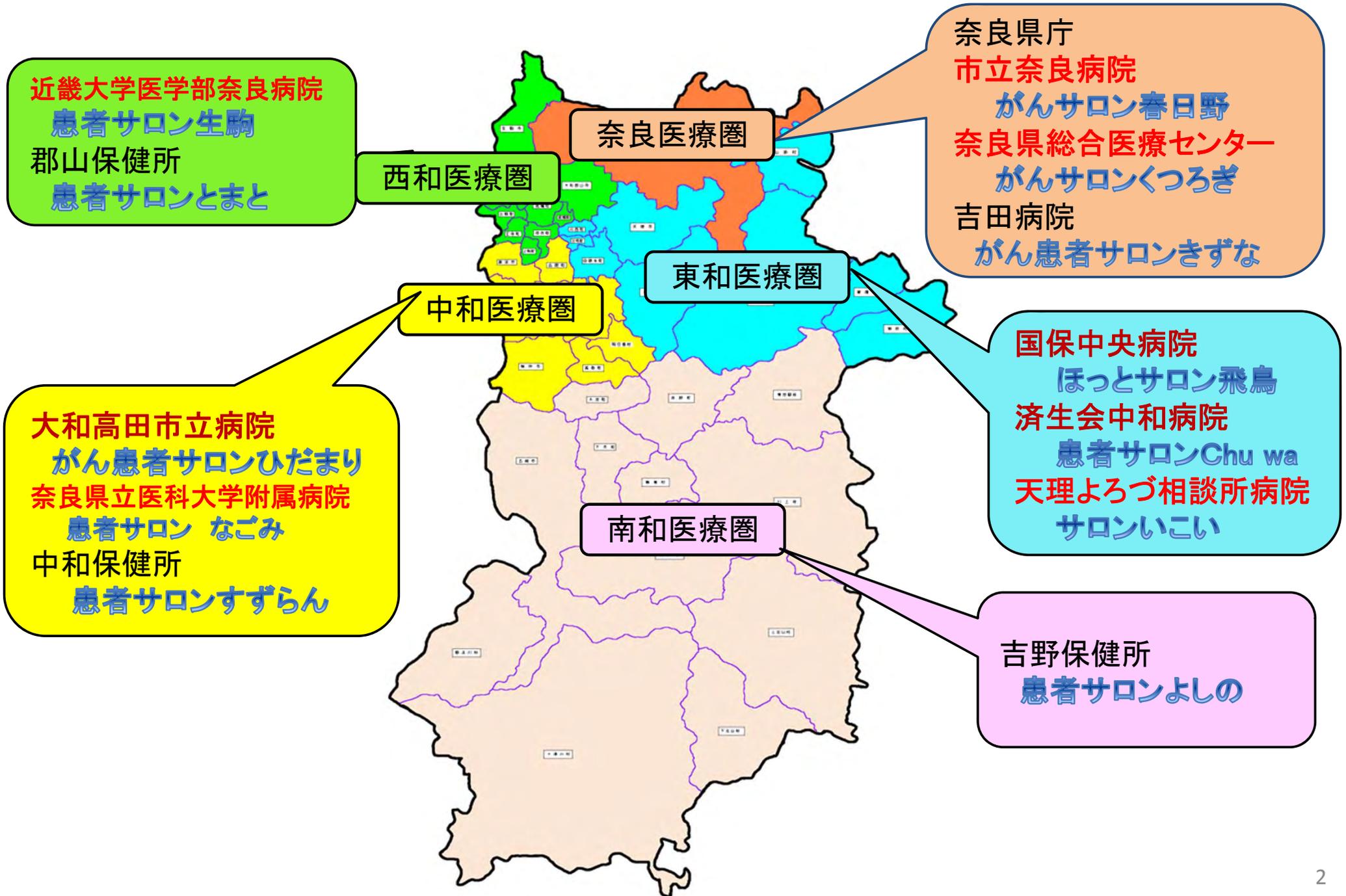
奈良だからできた  
患者・医療者・行政  
連携と協働の成果と課題

奈良県立医科大学付属病院

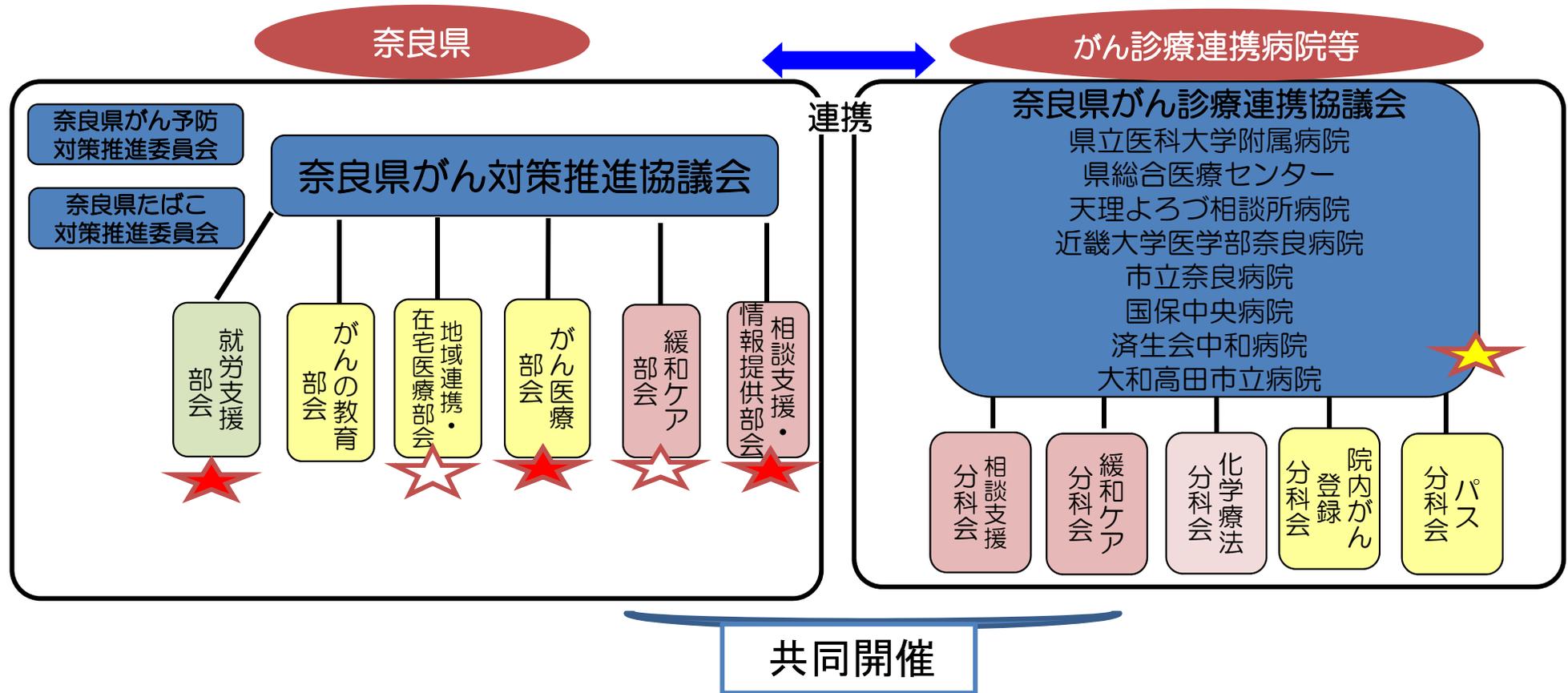
川本 たか子

2016年1月23日

# がん相談支援センター・患者サロン



# 奈良県がん対策推進協議会（部会）の体制 奈良県がん診療連携協議会（分科会）の体制



★ 県民代表委員 ★ 県民代表委員・患者

★ 患者会代表等との懇談会

# サロンにおける 患者の役割

経験者と対話したい

気軽に集まれる場所がほしい

各医療機関に対して熱烈アプローチ

ピアサポーター養成講座に参加

サロン案内チラシを作成

各サロンで進行役 (不安)

病院のサロン外にサロンが必要

もっと相談員に参加してほしい

地域の集会所・飲食店でサロン

患者会活動 「カフェ」に発展

# サロンにおける医療機関役割

語り合いの場を提供（気軽な気持ちで設置）  
（順次診療連携拠点病院に設置）  
運営はピアサポーターが主体  
相談員は相談に対応 可能な範囲で参加  
分科会（年4回）で実施状況や問題を共有

参加を促すための周知が必要  
毎回サロンに相談員が参加できない（人・場所の問題）

共有の案内チラシの作成（相談支援分科会）  
記念行事（講演）・アピアランスケアの実施  
医師・看護師・栄養士など他職種との協力  
保健所のサロンに相談員・看護師・医師が参加  
（講師 ピアサポーター支援など）

# サロンにおける 行政の役割

ピアサポーター養成研修/フォローアップ研修  
周知案内チラシ作成(相談支援部会)

## 南和地域にサロンを

保健師の相談員基礎研修参加

保健所にサロン設置

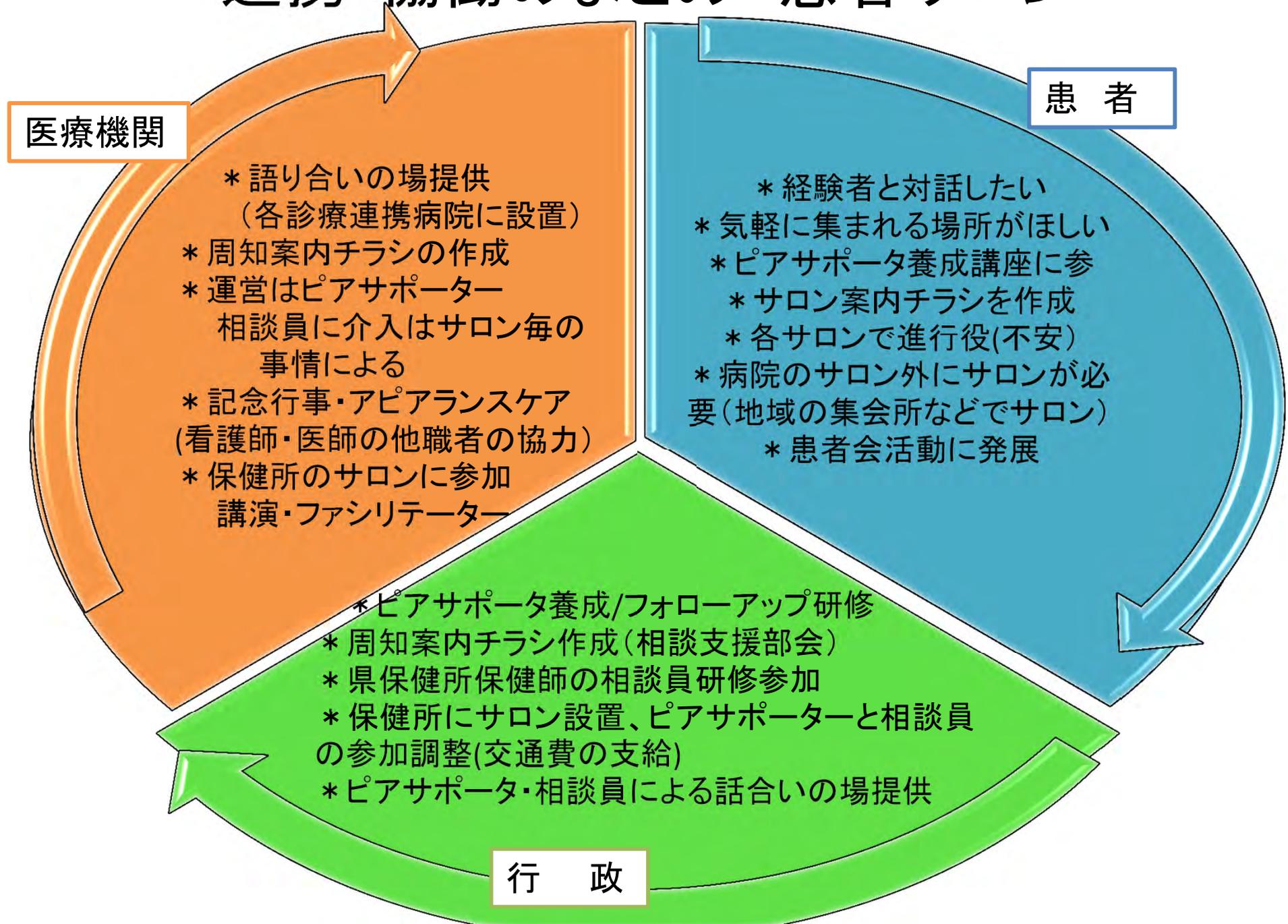
ピアサポーターと相談員の参加調整(交通費)

## 患者と相談員の協働が重要

ピアサポーター 相談員の交流の場提供

養成研修・フォローアップ研修に相談員が参加  
サロン運営に関して話し合い

# 連携・協働のまとめ 患者サロン



# がん患者会・関連団体

会の名称	対象者
あけぼの奈良	乳がん患者
奈良交声会	喉頭摘出者
日本オストミー協会 奈良県支部	人工肛門・人工膀胱 患者・家族
奈良県のホスピスとがん医療をすすめる会 (関連団体)	患者 家族・遺族 医療・福祉関係者、一般の方
日本在宅ホスピス緩和ケアネットワーク (関連団体)	一般 医療関係者 福祉関係者
飛鳥の会 がん患者の遺族のための親睦会	遺族
<b>NCN</b> (奈良キヤンサーネットワーク)若草の会 H23年	全がん種の患者 家族・遺族
奈良がんピアサポートなぎの会 H24年	患者 家族・遺族

# 患者会における患者の役割

- \* 全がん種対象の患者会を立ち上げたい

サロンで呼びかけ手記冊子の作成

(患者団体助成事業の利用)

- \* 「若草の会」・「ピアサポートなぎの会」立ち上げ

サロン・相談員を活用

県民提案事業に応募

*地域での交流会(サロン)、集会・講演会の実施*

- \* 県や医療機関が行う講演会・研修会に参画

- \* がん対策推進協議・各部会、診療連携協議会の

懇談会に出席 (自らの意志で応募、参加)

県民代表または患者会代表で参加(意見・提案)

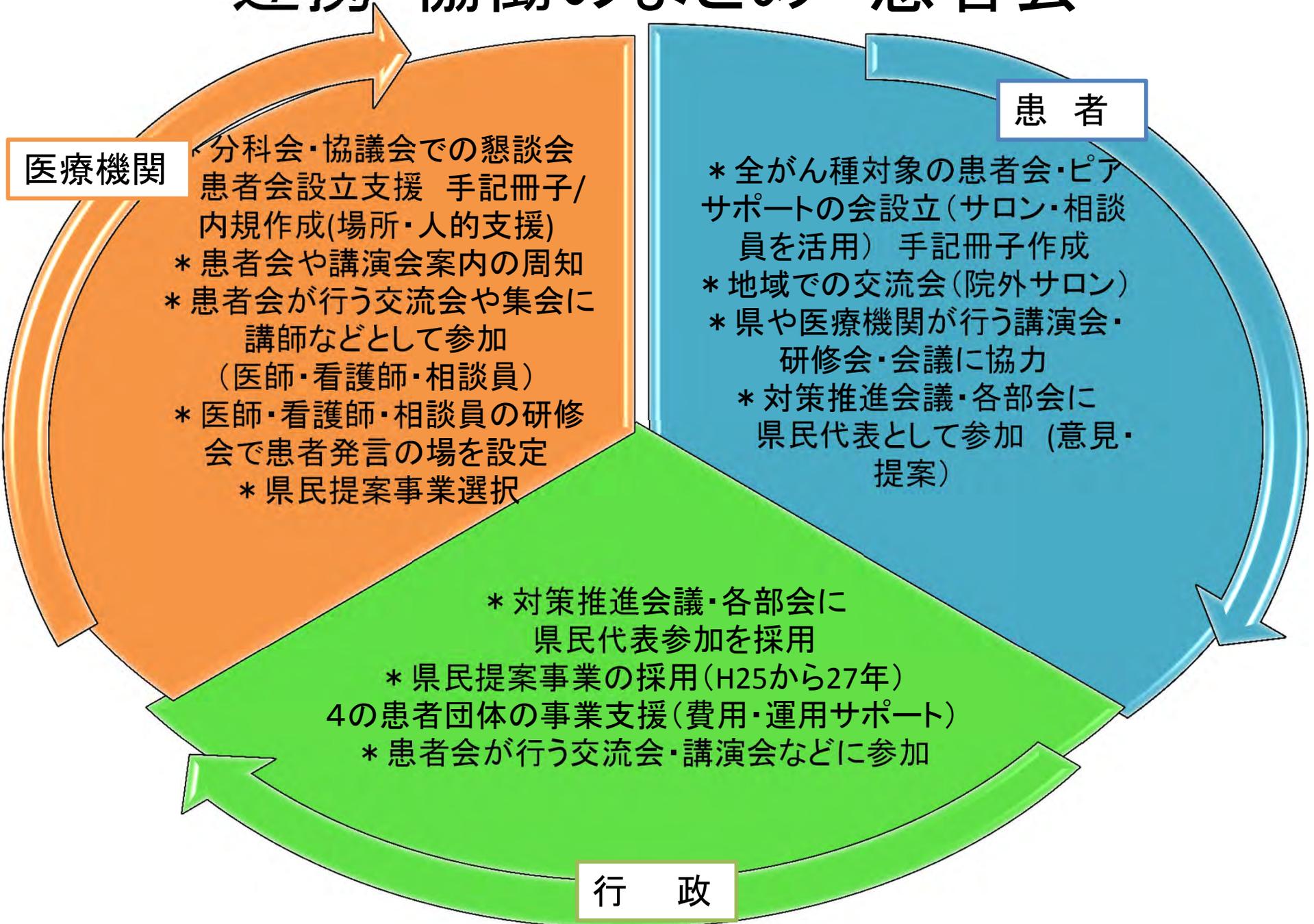
# 患者会における医療機関の役割

- \* 患者会設立支援
  - 手記冊子の作成(患者団体助成事業を利用)支援
  - 活動場所の提供 内規の作成
- \* 活動を支援
  - 患者会や講演会案内のチラシ作成など周知
  - 患者会が行う交流会や集会に講師などで参加  
(医師・看護師・相談員、他職種者など)
- \* 医師・看護師・相談員の研修会で患者発言の場を設定 (患者の声を聴く)
- \* 県民提案事業の選択や実施で協力
- \* 分科会・協議会での懇談会(患者の意見を聴く)

# 患者会における行政の役割

- \* がん対策推進協議会・各部会に  
県民代表を参加 患者2名が参加
- \* 県民提案事業の採用(H25から27年)  
4の患者団体の事業を支援  
(費用・運用サポート)
- \* 患者会が行う交流会・講演会などに参加
- \* がん政策サミット開催・参加  
(患者会・医療者)

# 連携・協働のまとめ 患者会



# 成果の要因(連携・協働)

- ☆医療機関(相談員)と行政(保健師)は企画と実施において連携・協働がスムーズ  
がん対策係(保健師)が医療と行政を繋いだ  
女子会(相談員と行政)が重要
- ☆医療機関(相談員)は患者と行政のつなぎ役  
患者の意見を引出し行政に提案
- ☆行政は医療機関(相談員)と患者のつなぎ役  
患者の意見を引き出し、医療機関に提案

# 患者サロンの課題

1. 患者サロンや相談支援センターの周知不足  
(相談員にもっと協力してほしい)  
医療機関の患者サロン参加者の伸び悩み  
ピアサポーターのみ 新規の参加者が減少  
入院患者の参加がない
2. サロンの活性化と円滑な運営には経済的  
な基盤が必要  
ピアサポーターは無償(交通費が負担)  
場づくりのため資材などの提供(自費)

# サロン活性化の対応

## 1. 県担当者・患者・相談員で検討

各サロンの病院側の責任者の明確化

定期的な患者との話し合い(医療機関の状況に合わせ)

*院内放送で参加を呼び掛ける*

院内の職員への周知方法

各サロン案内に工夫 (ポスター作成と配布)

## 2. 参加しやすい体制づくり

ピアサポーターに交通費などの支給

適切な場所の提供

相談員が常時参加できる体制

患者さんの必要に合わせて参加できる

(診察やお見舞い時に利用)

# 患者会活動 課題

1. 患者会活動の活性化が？  
がん種の異なる患者会では病状や経験した治療の違いが十分理解しあえない  
会議に参加できない
2. 患者会内(患者会間)での人間関係が  
うまくいかない  
人生経験(社会的立場など)や患者会に対する  
思いや意見の調整ができない
3. 活動の基盤になる場所が確保されていない

## 患者会活動への対応

- \* 医療機関・行政が支援できること
  - 活動の場の提供や必要物品の提供
  - 用紙類 パソコン
  - 会議室や相談室が利用しやすい環境提供
  - 患者会活動をさらに積極的に支援
  - 関係性の調整
  - 研修会・講演会を支援 参加
- \* 患者会自らが行うこと
  - 講演会や集会など企画と実施
  - (民間の支援団体を利用)

コンパクトな奈良でこそ  
できたことです。

それぞれの顔が見える関係を維持  
しながら  
常に連携と協働を意識しながら  
前向きに

ご清聴ありがとうございました。